

若宮八幡古墳

東松山市所在

左手が若山八幡古墳とある





鎮守八幡神社とある





前方に鳥居が見える







村社八幡神社とある



前方に古墳の上に建つ社殿が見える









古墳の上に建つ社殿



















古墳の羨道部が見える



框石の所から先は入れない



前室(床には礫が敷き詰められている)と玄室(奥)



中が見やすいように照明装置がスタンバイされている

天井石を見る



玄室

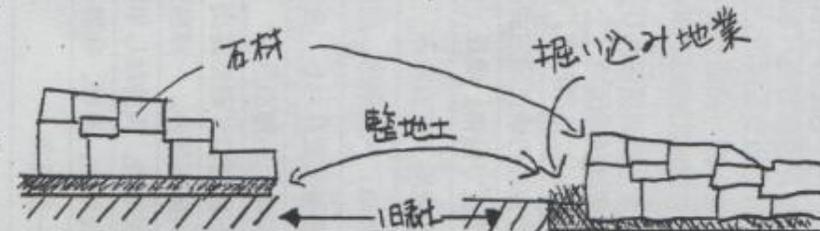


整備に伴う古墳調査

調査方法：トレンチ（試掘溝）調査及び土層断面観察

調査から得られた事実

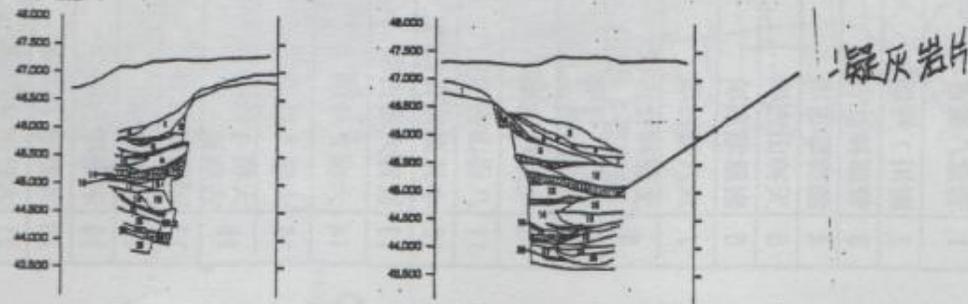
- ① 石室は、旧表土上にロームブロックを含んだ褐色土を約 40 cm 固く整地（地業）したのち根石となる石を配置し積み上げている。通常は地面を掘り込んで根石となる石を配置して石材を積み上げる方法が多い。



- ② 前門部の框石と両側壁には方 4 cm の空間を設けるように両側に礫こんが詰め込まれており、門柱痕と考えられる



- ③ 石積みは切石切組積で、内面は平滑に調整されるが、外面はノミの痕跡を明瞭に残し、外面は凹凸状に石積みされている。ノミは刃幅 35~55 mm で、5 種類程度道具が確認できる。
- ④ 石積みはほぼ 1 段毎に外面を調整し、盛り土を施したのち、つぎの石材を積み上げ、外面を調整し、盛り土を施すことを繰り返すことで築造されていることが土層観察より窺える。
- ⑤ 天井石はこれまで緑泥片岩（青石）と言われていたが、凝灰岩（砂質凝灰岩）であることが確認された。また、その形状は「かまぼこ形」を呈している。
- ⑥ 古墳南側斜面地で周溝の一部が確認され、埴輪片が出土している。また前室部からは鉄製品が出土している。











今回の調査に伴ってかなりの木々が伐られている









正面の森が八幡神社(右手が古墳)



古墳の高まりとその上に建つ社殿



神社手前にはこのような石仏が並べられていた



参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/SAITAMA/matuyama/wakamiya.html>

<http://homepage3.nifty.com/jh1eda/wakamiyahatimankohun.html>

<http://nipponsanpo.fc2web.com/sanpo/sanpo200306071.html>

